

倫理的推論に関する VALUE ルーブリック

詳細は、value@aacu.org を参照



VALUE ルーブリックは、全米の大学を代表する専門教職員が、学習の成果に関する各大学のルーブリックや関連文書を調査し、教職員からのフィードバックを参考にして作成されたものである。このルーブリックは、段階的達成レベルを示す能力指標により、各学習成果の原則的な基準を示すものである。このルーブリックは、各大学が学生の学習を評価し考察する目的で使用するものであり、成績をつけるために使用するものではない。この 15 の VALUE ルーブリックに示された学生に期待される能力に関しては、各大学、専門分野、コースに応じて、それぞれの解釈が可能である。VALUE ルーブリックは、学生の成果に関し共通の手段と理解を共有することで、すべての学部レベルの機関での学生の学習を、一つの基本的な期待レベルの枠組みの中で位置づけるためのものである。

定義

倫理的推論とは、人間行為の善悪に関する推論である。学生は自己の倫理的価値観と問題の社会的な関係性を評価し、様々な場における倫理的問題を認識し、倫理的なジレンマに異なる倫理的視点を応用する可能性を考え、選択肢となり得る別の行動を取った際の予期せぬ影響について考えることを求められる。倫理的な意思決定能力を用いて意思決定を実践していく中で、学生の倫理的な自己認識は進化し、また、学生は倫理的問題に関する自身の立場を分析し、説明する力を身につける。

概要

このルーブリックは、教員が倫理に関する学生の学びを示す数種類の課題や一連の課題を評価する際に役立つよう作成されたものである。一般教養課程は、大学で学んだことを行動に移すことができるような学生を育てることを目指すべきだが、学生が実際に倫理的な行動を求められる状況におかれたときに、倫理的な行動を取るかどうか判断するのは不可能に近いのか、あるいは不可能であるかもしれない。ルーブリックを用いて評価できるのは、学生が倫理的な選択をするための知的ツールを持っているかどうかということである。

このルーブリックは、「倫理的な自己認識」「倫理的問題の認識」「異なる倫理的視点や概念の理解」「倫理原則の応用」「異なる倫理的視点や概念の評価」という、五つの要素に着目する。倫理的な意思決定能力を用いて意思決定を実践していく中で、学生の倫理的な自己認識は進化し、また、学生は倫理的問題に関する自身の立場を分析し、説明する力を身につける。倫理的問題に直面したときは、倫理的な行動を取ることを選択するであろうと思われる。

倫理的推論に関する VALUE ルーブリック

詳細は、value@aacu.org を参照



用語

下記は、このルーブリックにのみ適用される用語と概念の定義である。

核となる考え方	人の倫理的行為や倫理的思考に、意識的に、あるいは無意識に影響を与える基本的な原則。核となる考え方は、認識していなくても、その人の対応を形成する。核となる考え方は、その人の環境、宗教、文化や教育を反映していることもある。人は核となる考え方に基づく行動を取ることを選択することもあれば、取らないことを選択することもある。
倫理的視点・概念	倫理理論（功利主義、自然法、道徳等）や倫理の概念（例えば、権利、正義、義務等）など、倫理的問題を分析する際に用いる様々な理論的手法。
複合的・重層的（グレー）な関係性	学生が識別する必要がある問題・関係性・複合的状況に、二つ以上の倫理的ジレンマ（問題）を持ち込むシナリオの各部分、または状況的条件。
問題内の相互関係	シナリオにある問題の細部分・状況的条件間の明白な関係、または、あいまいな関係（例えば、温暖化の問題ととうもろこしの生産の関係）。

倫理的推論に関する VALUE ルーブリック

詳細は、value@aacu.org を参照



定義

倫理的推論とは、人間行為の善悪に関する推論である。学生は自己の倫理的価値観と問題の社会的な関係性を評価し、様々な場における倫理的な問題を認識し、倫理的なジレンマに異なる倫理的視点を応用する可能性を考え、選択肢となり得る別の行動を取った際の予期せぬ影響について考えることを求められる。倫理的な意思決定能力を用いて意思決定を実践していく中で、学生の倫理的な自己認識は進化し、また、学生は倫理的な問題に関する自身の立場を分析し、説明する力を身につける。

単独の課題、または複数の課題を統合して、ベンチマーク（基準 1）に達しない場合は、0点と採点することを推奨する。

	最終基準	中間基準		ベンチマーク
	4	3	2	1
倫理的な自己認識	学生は核となる考え方とその由来を分析し詳細にわたり考察できる。また、その考察はより深く、より明確になっている。	学生は核となる考え方とその由来を分析し詳細にわたり考察できる。	学生は核となる考え方とその由来を述べるができる。	学生は核となる考え方を述べるか、あるいはその由来を明確に述べるができるが、両方述べることはできない。
異なる倫理的視点や概念の理解	学生は使用した理論の名称を述べ、その理論の要点を提示し、その理論の詳細を正確に説明することができる。	学生は使用した主な理論の名称を述べ、その理論の要点を提示し、その理論の詳細について説明するが、いくつか不正確な点がある。	学生は使用した主な理論の名称を述べるができるが、その理論の要点を提示することしかできない。	学生は使用した主な理論の名称のみ述べるができる。
倫理的問題の認識	学生は複合的・重層的（グレー）な関係性において倫理的な問題と、問題内の相互関係の両方を認識することができる。	学生は複合的・重層的（グレー）な関係性において、倫理的な問題、または、問題内の相互関係を認識することができる。	学生は基本的で明白な倫理的問題を認識でき、問題の複雑さや、問題内の相互関係を（不完全に）理解できる。	学生は基本的で明白な倫理的問題は認識できるが、問題の複雑さや、問題内の相互関係は理解できない。
倫理的視点・概念の応用	学生は倫理的視点や倫理の概念を独自に、また、正確に倫理的な問題に応用することができ、応用することによって予期される全ての結果について考えることができる。	学生は倫理的視点や倫理の概念を独自に、また、正確に（新しい事例の）倫理的な問題に応用することができるが、応用することによって予期される結果について考えない。	学生は倫理的視点や倫理の概念を独自に（新しい事例の）倫理的な問題に応用することができるが、応用が不正確である。	学生は倫理的視点や倫理の概念を、助力（授業やグループ内で事例を使用したり、選択肢がすでにある場合等）を得た上で、倫理的な問題に応用することができるが、倫理的視点や倫理の概念を独自に（新しい事例に）応用することができない。
異なる倫理的視点・概念の評価	学生は自己の姿勢を示し、異なる倫理的視点や倫理の概念に対する反論や、異なる倫理的視点や倫理の概念に基づく姿勢の想定、予測される結果を述べ、それらに対して合理的に自身の姿勢を弁護することができる。また、その弁護内容は適切で効果的である。	学生は自己の姿勢を示し、異なる倫理的視点や倫理の概念に対する反論や、異なる倫理的視点や倫理の概念に基づく姿勢の想定、予測される結果を述べ、それらに対して自身の姿勢を弁護することを試みるが、その内容は不適切である。	学生は自己の姿勢を示し、異なる倫理的視点や概念に対して反論や想定、推測することができるが、それらに対して何も答えることができない。（最終的には学生の中でそれらの反論や、想定、推測は学生によって細分化されるため、学生の姿勢に影響を及ぼさない。）	学生は自己の姿勢を示すことはできるが、異なる視点や概念に対する反論、想定、制約について述べることはできない。